慣用句(かんようく)の きまりを 書こう⑤

きまりを 文に して 書こう

なまえ ＿＿＿＿＿＿＿＿

ひづけ ＿＿＿＿＿＿＿＿

問1・問2とも、4つの ことばの 意味から きまりを 見つけ、それぞれの 下の 線に 1文で 書こう。

書き方 〔 〕に ことばを 入れて 書く。〔体の ぶぶん〕の ことばは、〔どんな はなし〕が 多い。

れい 腕(うで)の ことばは、うでまえの はなしが 多い。(1～2行で 書けます。線は あまっても よい)

問1 胸(むね)の ことば

(1) 胸(むね)が 潰(つぶ)れる ＝ かなしさや しんぱいで、たまらなく くるしくなる

(2) 胸(むね)が 騒(さわ)ぐ ＝ わるい よかんが して、おちつかない

(3) 胸(むね)に 秘(ひ)める ＝ 心の 中に しまって おいて、人には 言わない

(4) 胸(むね)を 焦(こ)がす ＝ あることを 強く 思って、せつなく なる

この 4つに 当てはまる「きまり」を、文に して 書こう。

＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

問2 目の ことば

(1) 目を 向ける ＝ あることに 気づいて、注意を はらう

(2) 目星を つける ＝ だいたいの 見当を つけて、ねらいを 決める

(3) 目処(めど)が 立つ ＝ これから どうなるか、見とおしが つく

(4) 目端(めはし)が 利(き)く ＝ その 場の ようすに すばやく 気づいて、うまく うごく

この 4つに 当てはまる「きまり」を、文に して 書こう。

＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

いちごドリル プリント

つづきの無料プリント
「慣用句」のプリント一覧がひらきます

慣用句(かんようく)の きまりを 書こう⑤【こたえ】

きまりを 文に して 書こう

なまえ ＿＿＿＿＿＿＿＿

ひづけ ＿＿＿＿＿＿＿＿

まるつけ めやすは 2つ。①体の ぶぶん（むね・め）が 入って いる。②はなしの 中身が 書けて いる。
「多い」と 書いて ある ことが 大切です。ぜんぶに 当てはまるとは かぎらない きまりだからです。

問1 胸(むね)の ことば

(1) **胸(むね)が 潰(つぶ)れる** ＝ かなしさや しんぱいで、たまらなく くるしくなる

(2) **胸(むね)が 騒(さわ)ぐ** ＝ わるい よかんが して、おちつかない

(3) **胸(むね)に 秘(ひ)める** ＝ 心の 中に しまって おいて、人には 言わない

(4) **胸(むね)を 焦(こ)がす** ＝ あることを 強く 思って、せつなく なる

この 4つに 当てはまる「きまり」を、文に して 書こう。

胸(むね)の ことばは、心の 中の おもいや 気もちの はなしが 多い。

めやす □体の ぶぶん（むね）が ある □心・気もち・思い などの はなしが 書けて いる

こたえは いちれいです。めやすの 2つが できて いれば、ことばが ちがっても ○。

問2 目の ことば

(1) **目を 向ける** ＝ あることに 気づいて、注意を はらう

(2) **目星を つける** ＝ だいたいの 見当を つけて、ねらいを 決める

(3) **目処(めど)が 立つ** ＝ これから どうなるか、見とおしが つく

(4) **目端(めはし)が 利(き)く** ＝ その 場の ようすに すばやく 気づいて、うまく うごく

この 4つに 当てはまる「きまり」を、文に して 書こう。

目の ことばは、気づく・見とおす・見当を つける はなしが 多い。

めやす □体の ぶぶん（め）が ある □気づく・見とおす・見当を つける などの はなしが 書けて いる

こたえは いちれいです。「見る はなし」でも ○。「気づく・見とおす」まで 書けると ◎。